



アグリ筑西

2019 3月号



日中の日差しが暖かい日が増えてきましたが、まだ夜は寒い日が続きます。体調管理には十分、気を付けましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
筑西地域農業改良推進協議会 発行
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス！→



筑西地域農業三士活動研究会を開催！



1月31日、筑西地域の農業経営士、女性農業士、青年農業士、関係機関など21名が参加し、筑西地域農業三士活動研究会を開催しました。この研究会は、農業三士の交流促進を目的に、今年初めて開催されたものです。

当日は、まず桜川市でこだまスイカ、トマト、キュウリ等の施設野菜生産に取り組んでいる藤田経営士のほ場で現地研修を行いました。藤田経営士は、既存の鉄骨ハウスを活用し、労力軽減と所得向上を目的に新規作物として軟白ネギとカボチャの栽培に取り組んでいます。参加者は、軟白ネギのほ場を見学し、そのチャレンジ精神に刺激を受けた様子でした。



ネギほ場での研修の様子



活動報告会の様子

視察後は、場所を移動して活動報告会を行いました。農業三士の各代表者より、今年度の活動報告を行い、それぞれの活動について理解を深めました。また、県西農林事務所企画調整課から「農業分野における補助金の種類と活用のポイント」についての情報提供があり、各支援事業の仕組みや要件について理解を深めました。

参加者からは、「これからは農業三士が交流する機会を増やしていきたい」といった声が聞かれ、有意義な研究会となったようです。普及センターでは、今後も農業三士の各活動を支援し、農業三士間での交流促進を図っていきます。



筑西地域農業青年リーダー研修会を開催！



2月8日、管内農業後継者クラブ員11名が豊洲市場において視察研修を行いました。豊洲市場は、築地市場の移転先として、昨年10月11日に開場したばかりの市場で、荷卸しされた商品の温度管理や衛生管理などを徹底するために、日本で初めて閉鎖型市場の施設設計となっています。

当日は、東京シティ青果株式会社の笠井部長に場内を案内していただきました。場内は、温度管理のためにシャッターでフロアごとに仕切られており、また、フォークリフトも全て電動式で、粉塵などの発生防止を図っていました。笠井部長からは、今後、高品質で安全・安心な農産物が求められるが、豊洲市場はそれを実現できる市場であると説明がありました。

参加者からは、「生産者もこれからは安全・安心について、より一層気をつけないといけないと感じた」といった感想が聞かれ、有意義な視察研修となりました。



施設見学の様子



ナシの天敵利用参考防除例2019年版を作成しました



普及センターでは、ハウスおよび露地でのナシ栽培においてハダニ類を捕食する天敵資材の導入実証圃を設置し、ハダニの発生消長や導入効果の確認、また天敵利用のための防除体系について、2年間検討してきました。その結果、適期の天敵資材の導入とその天敵に合わせた薬剤防除を行うことにより、ハダニによる加害をほぼ0に抑制でき、殺ダニ剤の散布回数を平均25%、最大50%削減できることが明らかとなりました。

天敵を利用する際はいくつかの条件や制約があります。また、「天敵利用の参考防除例2019年版（ハウスナシ・露地早生なし）」を作成したので、導入をお考えの方は、普及センターにご相談ください。

天敵利用した露地早生なし・半露地防除例 2019年版

日	天敵の種類	天敵の導入	天敵の導入回数	天敵の導入量	天敵の導入時期	天敵の導入場所	天敵の導入方法	天敵の導入効果	天敵の導入コスト
5月9日	ハダニ類	天敵放飼	1回	1000頭	5月9日	ハウスナシ	天敵放飼	ハダニの発生を抑制	1000円
6月9日	カブリダニ類	天敵放飼	1回	1000頭	6月9日	ハウスナシ	天敵放飼	ハダニの発生を抑制	1000円
7月9日	殺ダニ剤	散布	1回	1000g	7月9日	ハウスナシ	散布	ハダニの発生を抑制	1000円
8月9日	ハダニ類	天敵放飼	1回	1000頭	8月9日	ハウスナシ	天敵放飼	ハダニの発生を抑制	1000円

天敵利用の参考防除例2019年版

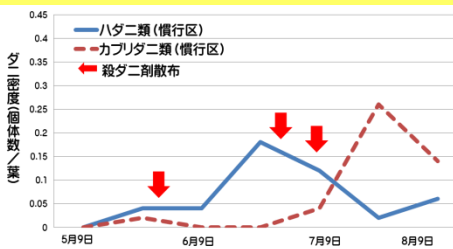
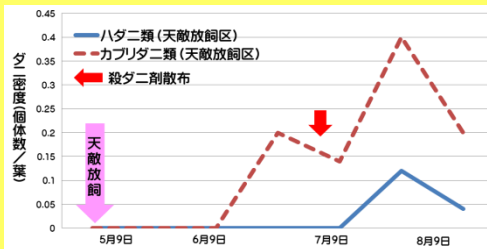


図 ナシ（ハウス）におけるハダニ類とカブリダニ類の発生消長（左：天敵放飼区、右：慣行区）



写真 天敵資材設置の様子（水侵入防止のための果実袋を使用）



営農情報～イネ縞葉枯病対策～



県西地域を中心にイネ縞葉枯病の発生が拡大しています！

発病が多くなると減収の原因になります。ウイルスを媒介するヒメトビウカの適切な防除を行い、イネ縞葉枯病の発生を抑制しましょう！

○ 育苗箱施薬剤を使用して下さい！

長期にわたって効果が持続する育苗箱施薬剤を処理することで、生育初期に水田に飛来するヒメトビウカを防除します。初期の感染を防ぐことで被害を軽減することができます。

○ 本田防除を行いましょ！

ヒメトビウカの本田での防除適期は、幼虫発生時期である6月中旬～下旬です。特に幼虫が増加する6月20日前後の薬剤散布が効果的です。この時期に適用のある薬剤を散布して下さい。

○ 抵抗性品種でもヒメトビウカを防除しましょ！

飼料用品種や一部の主食用品種にはイネ縞葉枯病に抵抗性をもつ品種があり、これらの品種では発病しません。しかし、病気が出ないだけで、ウンカやウイルスを無くすわけではありません。そのため、抵抗性品種作付けほ場でウンカを防除しないと、ウンカが増殖拡散し、他のほ場での被害につながります。

◎ イネ縞葉枯病の被害を軽減するため、地域が一体となった防除の取組をお願いいたします。



ウイルスを媒介するヒメトビウカ



普及員のひとりごと ～ 櫻村英一～

「下町ロケット」観ましたか？かなり誇張されており、「ちょっと違うべ」と思う場面もありましたが、ICTを活用したスマート農業は現実のものになりつつあります。夜寝ている間に無人トラクターが代かきし、田植えも自動、田んぼを見に行ったら田植えが終わっている、そんな夢のような時代はもうすぐそこかも・・・。

編集後記

日中の暖かい日差しに、春の訪れを感じます。花粉症の方にとっては、外での作業がづらい時期ですが、頑張って乗り切りましょう！今瀬

皆さまからのご意見・情報をお待ちしております。